第２回　昭島市男女共同参画推進委員会
議　事　要　旨

〔日　時〕　平成 24 年５月 25 日（金）18：30～19：50
〔場　所〕　昭島市役所　３階　庁議室
〔出席者〕
１　委員
金野美奈子委員長、柴田邦臣副委員長、安済文幸委員、加藤教子委員、榑松洋委員、原幸子委員、平野博典委員

２　事務局
佐藤企画政策室長、市川男女共同参画担当主査、多田企画調整担当主事

３　傍聴者　０名

〔配布資料〕
・第２回男女共同参画推進委員会　次第
・加藤委員意見（資料１）
・原委員意見（資料２）
・平野委員意見（資料３）
・男女共同参画プラン進捗状況の評価方法（案）（資料４）

〔議事要旨〕
１　男女共同参画プラン策定の経緯について
事務局より、男女共同参画プラン策定時の主要事業の選定経緯や、事業に対する庁内各課の取組姿勢等についての説明が行われた。

２　男女共同参画プラン進捗状況の評価方法について
事務局より、事前に各委員から寄せられた意見に基づき、作成した「男女共同参画プラン進捗状況の評価方法（案）」についての説明が行われた。

《質疑応答》
◆「評価方法（案）」の１ページ目で、進捗状況調査報告書の23年度実施内容についてできるだけ数値を挙げて報告するとあるが、これは各課には既に依頼済みということでよいか。【金野委員長】
○実施状況が具体的に分かるように、回数や参加人数、または予算等について記載するよう、既に依頼済みである。【事務局】

◆「評価方法（案)」の１ページ目で、来年度から「事業の狙い」という項目を追加するとあるが、その内容については、行政側で記載するのか。【平野委員】

○事業を実施する各課で記載する。【事務局】

◆３ページの委員会評価書の「主要施策の狙い」という項目は、誰が記載するのか。【平野委員】

○委員会の評価書を公表した時に、市民の皆さんに分かりやすいように、プランに記載された主要施策の狙いを記載している。【事務局】

◆あまりだらだらと長く記載すると分かりづらいので、ポイントを絞ってほしい。【平野委員】

○計画上で、施策がどういう位置付けになっているかということを明らかにするものなので、このような記載となっている。【事務局】

◆委員会の評価において、評価説明の欄に意見をまとめられるようになっているので、私はいいと思う。【加藤委員】

◆進捗状況調査報告において、各課の取組を％で表すのは難しいという説明があったが、委員会の評価においては何らかの数値で表せる基準は示してもらえるのか。【原委員】

○事務局の案としては、３ページに記載した１から５までの基準を考えている。数値的に表すことは、事業によっては難しい。例えば周知・啓発の事業の場合は、どの程度実施したら100％と言えるのか、難しいため、それは委員会で議論していただき、この１から５の中で大体どの辺りに位置付けられるか、決めていきたいということである。基準の中で、例えば５の「良好に推進」とは８割程度なのか、９割以上なのか、ということであれば、事務局でもある程度の案を作っていきたい。【事務局】

◆そのように何割ということが明示されれば、少し評価しやすくなると思う。やはり、４や５の評価はかなり高い評価であり、市民の皆さんに施策の進捗状況を示す評価であるので、慎重に見ていかなければならないと考える。【原委員】

◆進捗状況調査報告において、各課で数値評価をすることが難しいという事情はよく分かったが、それでもできるものから数値で評価していったらどうか。【榑松委員】

○各課においては、実施したことについては回数や参加人数などの数字を挙げられるが、前回の会議でも議論になったように、このプラン自体がいつ何をどの程度行うかを明示した作りになっていないため、目標値にあたる部分を数値的に見出しづらいということになっている。それでもどの程度実施すれば達成できたと言えるのか、なるべく分かりやすく表せるように、原委員からお示しいただいた％での表示も含めて、来年度以降研究していきたいと考える。【事務局】

◆例えば、実施回数を何回予定していたけど、実際は何回実施したからｂだとか、そのような書き方をしてもらえれば、私たちも理解できると思う。【榑松委員】

○「評価方法（案)」１ページ目の例は、各課から上がってきた報告そのままではなく、事務局で作成した事例なので、実際はもう少し数値を入れた報告になると考えている。もし数値が入っていなければ、逆に事務局から各課に数値で報告するよう求めていきたいと考えている。【事務局】

◆委員会の評価について、１から５の基準はかなり幅がある言い方になっている。それぞれ委員の持つイメージで評価してしまうことになるので、もう少し幅を狭めた表現にした方が、議論を収束させやすいのではないか。【安済委員】

◆委員会で評価をするにあたっては、施策の狙いがはっきり分からないと評価しようがないと思う。それぞれの施策について、委員会で解釈する具体的な狙いを明確にして、それに基づいてこういう理由

でこの評価になったと説明する必要があると思う。【平野委員】

◆主要施策の狙いは、実施する行政側で考えることであって、委員会で議論するのは違うのではないか。むしろ委員会で議論することは、達成されるべき目標・基準などであり、それを委員会の評価書に記載してどの程度達成できたのかを評価するべきだと思う。もちろん施策ベースなので、細かい数値での基準は難しいと思うが、このプランを見てどの程度の成果が見込めるのかを文章でまとめていくのがよいのではないか。【柴田副委員長】

◆進捗状況調査報告について、私が事前に出した意見は来年以降反映してもらえるのか。【平野委員】

○平野委員のご意見のうち、「評価のポイント」という項目については、「実施内容」と「評価説明」の欄に記載することが可能なので、そちらで対応するとしている。【事務局】

◆事業が狙いどおり進捗しているかを確認するには、評価のポイントを明確にして、それに基づき実施状況を○△×で示す必要がある。評価のポイントで挙げたことがクリアされなければ、当然次年度以降何らかの改善が必要であるということになる。そのように自然に次年度以降の改善につながるような報告にしないと意味がないと思う。【平野委員】

◆今平野委員がおっしゃったことは委員会でやることなのか。【加藤委員】

◆事業を実施する担当部署でやってもらうことである。【平野委員】

◆次年度につなげていくことを委員会で指摘できるなら、委員会評価の「評価説明」欄に記載するのだと思うが、違うのか。【加藤委員】

○委員会評価の「評価説明」欄は、評価にいたった経緯や評価の理由を記載する所なので、加藤委員がおっしゃったようなことを記載していただいてかまわないが、主要施策ごとの評価であるため、事業ごとの細かい改善点を全て記入することは難しいかもしれない。【事務局】

◆加藤委員のご意見は非常に大事だと考える。「評価説明と助言・提言」というような欄にしたら、私たちも建設的な提案をしていけるのではないか。【柴田副委員長】

◆私が言っているのは、各課が自分たちで評価し、改善点に気付いていけるシステムに変えていかなければならないということである。今まで通りアウトプットのみの報告をいくら作っても意味がない。委員会でやることは、主要施策の狙いをはっきりさせて評価することで、お互いにすみ分けしながら進めていく必要がある。これまで何年も役所を見てきたが、帳票を含めた仕組みを変えていかないと、役所は何も変わらない。もちろん１年や２年でできるとは思っていないが、妥協せず、システムを変えていくという方向性を持ってほしい。【平野委員】

◆平野委員のご意見も踏まえて、いずれにしても来年度の調査に向けて検討いただくということでよろしいか。【金野委員長】

○評価のポイントというのは、各課が評価にいたったポイントということか。【事務局】

◆そうではなく、事業の狙いが達成されているかを判断するためには、アウトプットではなくアウトカムを測ることのできる具体的なポイントが必要ということである。【平野委員】

◆そうすると、評価のポイントは何であるかを決める議論が必要になるのではないか。【柴田副委員長】

◆評価のポイントは事業を実施する各課で考えてもらう必要がある。委員会でそれが妥当であるか議論することはかまわないと思うが。【平野委員】

◆今の議論の問題点は２つあり、１つは評価のポイントという項目が必要であるかどうかということと、もう１つは評価のポイントは事業主体が決める必要があるかどうかということである。平野委員と同

様に、私も両方必要であるとは思うが、アウトカムの話を十分理解せずに焦点のずれたポイントを決められる恐れもあるので、いずれにしても評価のポイントの決め方は問題になると思う。さらに、事業主体で自由記載ということにすると、先ほど事務局の説明にもあったように「実施内容」欄などと重複した内容になる可能性があるということだと思う。【柴田副委員長】

◆もちろん各課がすぐに実行できるとは思っていない。数年かかるかもしれないけど、その方向性に持って行きましょうということを言っている。【平野委員】

◆では来年度調査するときには、評価のポイントを明示して記載するように各課に依頼してもらえばよいのではないか。【柴田副委員長】

○「評価のポイント」欄を追加するのはかまわないが、どういう内容を記載するのかを各課に理解してもらわないとならないので、そこが問題であると考えている。【事務局】

◆民間会社では、アウトカム評価というのは既に一般的になっている。最初から完璧に書けるとは思っていないが、徐々にそちらの方向に行ってほしいということである。【平野委員】

○来年度に向けて検討はさせていただくが、評価のポイントが妥当かどうかについては委員会で議論していただく必要はあると考える。そうしないと毎年ずれたポイントで報告が上がってくることになってしまうと思うが、委員会では全体の施策評価もすることを考えると、時間的にはかなり厳しいのではないか。議論の進め方については特段のご協力をお願いする前提で検討させていただきたい。【事務局】

◆それでは、委員会評価の基準の話に戻るが、先ほど安済委員からももう少し分かりやすい基準をというご意見があったが、どうか。【金野委員長】

○基準については、％での表記など、ある程度の幅が分かるような表現を工夫して、次回委員会の前に委員の皆さんに提示させていただきたい。【事務局】

◆恐らく皆さんのご懸念されていることは、分かりにくいということであるので、分かりやすい表現をお願いしたい。例えば、大学では優・良・可・不可という基準で、優は大体80点から100点と決まっているし、不可は全くダメということになる。感覚的にはこういう方が分かりやすいのかなと思う。【柴田副委員長】

◆この基準の全てが分かりにくい訳ではなくて、例えば、基準の４の「概ね推進」と、５の「良好に推進」とは、人によって感じ方が違うと思うが、３の「現状維持されているか、新たな展開が見られるか」という点は恐らく皆さん同じような判断ができると思う。表現の問題なのだが、今柴田副委員長がおっしゃったような優・良・可というような基準は確かに分かりやすいので、「良好」といった場合には80点から100点とか定義されていると分かりやすいと思う。【安済委員】

◆基準がアバウト過ぎて、評価は難しいと思う。それを補うためには、やはり各課の進捗状況調査報告がしっかり作成されている必要がある。【平野委員】

◆自分の主観が入ってしまうそうで怖いという面はあるが、評価するための委員会なので、ある程度この場の考えで決めていっていいのではないか。【加藤委員】

◆現実には、どの程度が100％と決まっているような性格のものではないので、ある程度それぞれの委員さんのイメージと照らし合わせての評価になるというのは仕方ないかなという気はする。【金野委員長】

◆だから、やはり評価にいたるまでの過程が分かる資料が重要なのではないか。それが一番の手がかり

になると思う。【原委員】

◆それは事前に事務局にお願いして出していただくということなので、よろしくお願いしたい。【金野委員長】

〇では、今の議論を踏まえた評価方法について、次回委員会の前にお送りしたいと思う。時間もないので、次回は冒頭から評価に入っていくということでお願いしたい。【事務局】

◆１回の会議でどのくらいの項目の評価をするのか。【平野委員】

〇全３回の会議でこのプランの評価をお願いしたいと考えているので、主要施策24項目を３回に分けて、毎回８項目ずつとなる。事業ベースでいうと全体で148事業あるので、１回で50事業程度ということになる。進捗状況調査報告については、148事業分まとめてお渡しする予定なので、できるだけ早くお送りしたいと思う。疑問点等あったら事前にお寄せいただきたい。【事務局】

◆そうすると、次回までに50事業の進捗状況調査報告に目を通しておかなければならないということで、かなり負担が大きいので、やはり少しでも負担を減らせるように来年度からは仕組みを考えていただきたい。【平野委員】

〇タイトなスケジュールとなっているのは、来年度予算の時期の前にある程度評価をいただいて、改善点を来年度予算に反映できるようにということなので、ご理解いただきたい。評価の方法や帳票については、やっていきながらいいものにしていきたいので、ご協力をお願いする。【事務局】

３　その他

事務局からは特になし。

《質疑応答》

◆資料については、メールで送っていただいているが、量が膨大なので、できるだけ紙ベースでいただきたい。【榑松委員】

〇資料については、電子データと併せて紙ベースでもお送りする。【事務局】

～閉会～